

国臨協関信支部

神奈川県地区会だより

神奈川県地区会総会・研修会に参加して



NHO 相模原病院

鹿毛 亮佑

令和元年9月21日(土)、NHO相模原病院臨床研究センター3階研修室において、第38回国臨協関信支部神奈川県地区会定期総会・研修会が開催されました。当日は多数の会員参加があり、来賓として関東信越グループより北沢敏男臨床検査専門職、国臨協関信支部より岩崎康治支部長と松林秀弥理事にご臨席賜りました。

定期総会では、佐藤俊行会長、岩崎支部長のご挨拶から始まり、議長に選出されたNHO久里浜医療センターの濱田靖副技師長による進行のもと、平成30年度経過報告・会計報告・会計監査報告、令和元年度事業方針(案)・予算(案)の審議を滞りなく進行了しました。その後、次年度の役員選出をし、新旧役員の挨拶をもって無事閉会いたしました。

続いて、松林理事より関信支部の活動について紹介いただきました。

同時開催の学術研修会は、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社の宮田和由先生より「採血ベストプラクティス」と題し、ご講演いただきました。JCCLS標準採血ガイドラインが改訂されたことによる変更点や注意点を詳しく説明していただきました。採血業務はすべての検査技師に共通して身近であり、リスクの伴う業務であるので、今回学んだことを踏まえて日々の業務に励みたいと思いました。

最後に研修会として「伝達事項ならびに会員の皆様にもむけて」と題し、北沢臨床検査専門職より国立病院機構および関東信越グループの概要・各種認定試験の取得状況や主任選考試験・日々の業務に携わる心構えなど多くの内容をご講演いただきました。特に、10年後のシミュレーションを聴講する中で、今後管理職が不足し、体制を維持していくためには人材育成が急務であるという話には身の引き締まる思いでした。自身のスキルアップのために研修や認定試験も積極的に受ける必要があると改めて思いました。

定期総会・研修会終了後には場所を移し、小田急相模原駅近くの「旬薫三うら」において懇親会が行われました。例年にも増して参加者が多く、他施設の会員の方々と交流することができ、和気藹々とした雰囲気の中、親睦を深めることができました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をいただきました宮田先生、北沢臨床検査専門職、ご臨席賜りました岩崎支部長、松林理事、ならびに定期総会の企画・開催にご尽力いただきました神奈川県地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

